

第3回海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」募集結果 講評

今回は論文3編とエッセイ・評論14編の応募がありました。前回より応募作品数は少なくなりましたが、論文についてはいずれも興味深い内容であり、またエッセイ・評論では国内外の学生からご高齢の方まで、さまざまな視点から興味が尽きない秀作を応募していただくことができました。

<論文の部>

田中和幸氏による「ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治」は、海外移住の広報宣伝活動に使われた幻燈スライドに関して丁寧調べ、新たに発見された資料も使い体系的に論じた内容であり、学術資料的に意義ある内容である点が評価され優秀賞となりました。

<エッセイ・評論の部>

田中クリスティーナ氏の「赤土の大地で句を詠む心～パラグアイと日本を繋ぐ歌人～」は、移住先で盛んに読まれ、邦字紙などに掲載された短歌や俳句を通して、移住地の情景や移住者の心情、そこから汲み取れる社会の動きなどを感性豊かに描いた作品であり、読み手に感動を与える内容が高く評価され最優秀賞となりました。

鄭ハナ氏の「韓国のブラジル移住政策が成功した理由～日本人移民社会との共存と、植民地時代の「日本人移民」の存在～」は、これまであまり取り上げられてこなかった朝鮮・韓国人のブラジル移民と日本人移民及びそのコミュニティとの関係を、参考文献を確認しながら述べたもので、日本人の中南米への移住史にとってもあらたな視座を与える内容が評価され優秀賞となりました。

同じく優秀賞として、内山夕輝氏の「パステウは日系人？」が、日本国内の日系人コミュニティの姿から日系を含む外国人労働者の社会に視点をむけている作品で、多文化共生・共存という今日的課題を深くとらえた点が評価されました。

以上の他に、日本移民ゆかりの地区に定着した二人の先達の日系としての生き様をたたえた、伊藤ホルヘ氏の「日本人移民を迎えた町「ヘスス・マリア区」と、邦字紙や文献だけでなく積極的なフィールド調査も踏まえて日系人の変容

を鋭く考察しようとする、大塚真理子氏の「知りたいと思うことへのいざないー
リマでのフィールドワーク雑感ー」が佳作となりました。